

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 26 年 12 月 19 日改正

(平成 27 年 1 月 1 日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 旅人とたいようの会

②施設・事業所情報

名称：特別養護老人ホーム ラック	種別：介護老人福祉施設（特養）	
代表者氏名：黒川 善栄	定員（利用人数）： 70 名	
所在地：岐阜県安八郡神戸町北一色 10 番地		
TEL：0584-28-1300	ホームページ： http://www.zenshinkai.or.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成 13 年 6 月 7 日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 善心会		
職員数	常勤職員： 39 名	非常勤職員 10 名
専門職員	（専門職の名称）	
	社会福祉士 6 名	介護福祉士 23 名
	管理栄養士 1 名	介護支援専門員 5 名
	看護師 2 名	准看護師 2 名
	社会福祉主事 3 名	歯科衛生士 1 名
施設・設備 の概要	（居室数） 49 室 70 床	（設備等）
	食堂 3 室	調理室 1 室
	浴室 2 室	多目的室 1 室
	医務室 2 室	理美容室 1 室
	談話室 4 室	事務室 1 室
	介護教室兼会議室 1 室	職員食堂 1 室
	介護職員室 2 室	看護職員室 2 室
	娯楽教養室 2 室	機能訓練室 1 室
	静養室 1 室	洗濯室 1 室
	面接室 1 室	霊安室 1 室

③理念・基本方針（※転載）

理念：個別ケアの確立

基本方針：利用者の人格を尊重し、日々の生活支援の場面で配慮する。特に、身体拘束
その他利用者の行動を制限する行為は行わないことを基本とする。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

法人理念を「個別ケアの確立」として、ユニット型のグループケアに取り組み、利用者と職員が馴染みの関係を築きながら、個々の希望が叶うように施設内の生活に限定せず、住民や社会との関わりが継続できるように外出支援も取り入れている。

利用者へのサービスが気持ちよく提供できるように、職員の働きやすい職場を目指し職場環境の改善やリフレッシュ休暇の導入・時間外労働時間の削減に向けて、全職員で取り組み、岐阜県子育て支援企業としての登録や岐阜県介護人材育成事業者「グレード2」を取得し、更に「グレード1」へ向けて前向きに取り組んでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成29年 9月 28日（契約日） ～ 平成 年 月 日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	0 回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

利用者に個別ケアを提供するために、4グループに分けてユニット型ケアを提供している。利用者の思いや生活の仕方を尊重しながら、日中は離床し食堂や廊下で自由に過ごしたり、施設から外に出て認知症カフェ・寺カフェや買い物に行ったりして、住民と触れ合う機会も作っている。

利用者の重度化に伴い施設での看取りを希望される利用者や家族の要望に応じて、家族向けの「やすらかな旅立ちのために」のパンフレットを作成している。最期まで利用者に寄り添い苦痛なく穏やかに過ごせるように、職員も外部研修や施設内勉強会にて、落ち着いてケアできるよう看取りへの体制を整えている。看取り後の一定期間を経てから、家族に利用者の写真を渡し、思い出話をしてグリーンケアにも取り組んでいる。

職員自らが目標設定し自己を振り返り、次のステップに向上できるような人事考課表を作成し、目指す職員像としてモチベーションアップや意識改革し、自己啓発できる仕組みを活用し、施設全体の経営改善や職場環境改善にも取り組んでいる。

一人ひとりの一日の暮らしが、その人らしく暮らせるよう利用者とのコミュニケーションを大切にして、趣味、希望、興味あることを把握し移乗・移動の自立に向け、自尊心を損ねない声かけと対応で、活動的にいきいき過ごせる工夫をしながら支援している。

食事は生命の維持、健康のもとと認識し、食事の選択メニューを豊富に、自分で食べられるよう、介助も急かさず、好みの味つけにして、食べる楽しみが得られるよう工夫をしている。

災害時対応型自動販売機を設置し、利用者、家族、地域住民の利便性を確保している。

◇改善を求められる点

玄関入口の水槽で飼っている鮫の見学に児童が来たり、夏祭りは大勢の住民が集う場になったりしているが、施設にある会議室や職員を活用し、福祉への理解が深まるための発信や住民との交流が日常的にできるよう、地域に開かれた施設への検討が望まれる。

廊下に消火器が収納箱もなく置いてある。万が一を考えて、利用者が触れないように安全な配置の工夫を期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の第三者評価結果については、今後の法人運営においてその方向性を定める大きな指標となりました。

地域貢献・地域交流について、今まで以上に地域住民が施設を気軽に訪問・使用できる、地域に開かれた環境づくりを進めます。そのためのノウハウを持つNPO法人等との連携も視野に入れ検討します。

事業計画、事業報告、資金計画などについて職員だけでなく利用者家族や地域住民に広く公開し、より身近に感じて頂ける法人・事業所を目指します。

災害時の指揮命令者不在時の対応や、消火器の安全な設置についてなど、アドバイス頂いた点について、法人として対応を協議し改善いたします。

時期良く新年度の事業計画策定が迫っております。さっそく今回の受審結果を真摯に受け止め、振り返りながら地域密着をキーワードに邁進いたします。

今回は本当にありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。